

《complete the educational reform》

競争から共創、そして 響創の教育改革へ！

1. 平成19年度のスタートにあたって

以下は、昨年度のスタートに当たっての私の思いを述べたものであり、基本的に変わっていない。改めて一部改正し、再掲する。

子ども、保護者、地域に信頼される学校づくりを

卒業生を送り出し、そして、新入生を迎え入れて平成19年度がスタートした。

毎年繰り返されることではあるが、新しい年度を迎えると気分も心なしか改まり、新たな決意の下に、子どもも教職員も、保護者も地域も、願いと夢の実現に向けた挑戦が始まる季節でもある。教職員の異動により、陣容が一変した学校。大きな異動はなく、職員体制を継続してスタートできる学校。PTAや青少対の役員改正等も無事すんだ学校等々。それぞれの学校が、若葉のように初々しい一年生を迎え入れ、進級した子どもたちとの顔合わせも終わり、希望に満ちた新学期がスタートできたことと思う。

どの子ども、どの親も新しい先生に、引き続き担任する先生に期待を寄せている。

子どもたちの夢や希望、保護者の願いや地域の声を真摯に受け止め、誠意を持って、そして教師(教育公務員)としての責任を果たす覚悟でこの一年をお願いしたい。

(誠意と責任が信頼を生む) そのためには、教師に期待される資質(人間性)・能力(専門性)とは何かを自覚し、教師としての適格性、人間性を自ら磨き、研修を通して専門性を高め、授業力の向上に努めることにより子どもや保護者、地域の期待に応えることのできる学校創りをお願いしたい。そのことが教師への信頼に繋がり、学級経営や専科経営、学校経営、教育活動への理解と協力を得る最善の方策となる。

初任者研修の開催に当たって、これまで国民が期待していた教師像と、これからの時代に期待されている教師の資質・能力について、さらに、学級経営や教科経営の基礎となる学級活動について私の思いを語っておいたので、その資料を添付しておく。

(学級活動については、初任者に渡したものを参考にして欲しい。)

初任者は、長い夢が叶ってこの職に就き、喜びと同時に大きな不安を抱えている。

その育成に当たっては、配属学年や指導教諭にのみ任せることなく、校長、副校長の大事な職務として大切に育てて欲しい。

※ これまで教師に期待されていた資質・能力

- ◆ 児童生徒に対する教育的愛情
- ◆ 教育者としての使命感
- ◆ 広く豊かな教養と人間性
- ◆ 教育の理念や人間の成長・発達についての深い理解
- ◆ 教科等に関する専門的知識

そしてそれらの上に立つ

- ◆ 実践的な指導力と児童・生徒への心の触れ合い

※ これからの教師に期待される資質・能力

- ◇ 長期に渡って教師を続けることのできる、
教師としての適格性・資質・能力

教師自身の「豊かな人間性と主体性の確立」が重要になる。

1. 子どもの多様な特性、個性、能力に即応できるカリキュラム開発能力
2. 子どもの多様な能力に対応できる、多彩で多様な教育方法・指導法の能力と力量
(ボランティアの活用・指導と評価の一体化)
3. 生徒指導・教育相談の力量 (児童・生徒理解、保護者対応)
4. 心身に障害のある子どもを適切に指導できる能力
(特別支援教育への理解と実践力)
5. 情報化対応能力 (情報機器の活用能力)
6. 国際化対応能力 (異文化集団の指導力)
7. 自分の考えを伝え、相手の考えを理解できるコミュニケーション能力
8. 経営スタッフとしての自覚と経営参画 (企画力・提案力・実践力)
9. 開かれた学校創りと保護者・地域との協働 (連携から協働へ)
→ コミュニティ・スクール (学校経営協議会)
学校説明会・授業等公開・実践報告会 (外部評価)

一方、校長、副校長には、教職員組織と責任を明確にし、一体となって教職員が経営参加できる校内組織体制をつくることによって、信頼される学校経営、学校創りを願いたい。そのためにも、これまで取り組んできた学校公開週間の学校独自の特色化や、学校説明会、中間報告会、外部評価の実施、教育実践（結果）報告会等、教職員組織で対応し、その結果を日々の教育活動に反映させ、子どもや保護者、地域により理解され、信頼され、協力を得られ、地域連携が一層進むよう創意・工夫を重ねた学校経営、教育実践への取り組みをお願いしたい。このことが、コミュニティ・スクールへ向けた取り組み推進の大きな支援となる。

先に行われた教務主任会において、校長のマネジメントスタッフとなる教務主任への期待を、平成13年度の資料を基に話しておいたので参考までに添付する。

教務主任会参考資料

平成19年4月10日（火）

小平市教育委員会

教育長 坂井 康宣

教務主任に期待する

H13.11.6（火）

小平市教育委員会

教育長 坂井 康宣

「教育課程編成に向けて」教務主任に期待する

開かれた学校・特色ある学校・特色ある教育活動 新教育課程と地域の人材・社会教育施設等の活用

1. ゆとりの中で「生きる力」を育む。

⇒ 焦点となるのは「総合的な学習」の時間である。

中学校においては、これに加えて「選択教科等の時間の拡大」が課題となる。

2. 地域の社会教育施設や人材等の活用を図る。

⇒ 「生きる力」の育成。

学校教育の閉鎖性、画一性を補い、一人一人の個性の伸張を図る。

「生きる力」を育むためには、ゆとりの中で基礎的・基本的な事項を繰り返し学習したり、作業的・体験的な活動、問題解決的な学習、各自の興味・関心等に応じた学習等にじっくり取り組ませることが必要である。

こうした教育活動は教室の中だけでは十分には行えない。「生きる力」の形成には、実社会や実際の自然環境における体験活動＝体験学習が不可欠となる。

これまでも学校教育では、社会科や理科・生活科・職業体験学習等を中心に、見学・観察などの形で地域社会のいろいろな公共施設や生産施設、自然環境などを

今次教育改革の最大の課題は、縮減・削減された教科時数から生まれる「ゆとり」の中で、如何に「生きる力」を育むかである。（「豊かな心」も特設したい。）
焦点となるのは「総合的な学習の時間」の創設であり、さらに中学校においては「選択教科の履修幅の拡大」「選択教科等の時間の拡大」である。

「生きる力」を育むためには、ゆとりの中で基礎的・基本的な事項を繰り返し学習したり、作業的・体験的な活動、問題解決的な学習、各自の興味・関心等に応じた学習等にじっくり取り組ませることが必要である。

こうした教育活動は、教室の中だけでは、又、これまでのように一人の教師では十分には行えない。「生きる力」や「豊かな心」の形成には、実社会や実際の自然環境における体験活動＝体験学習が不可欠であり、特に子どもの興味・関心に応じた、又、個性の伸張を図る教育活動の充実・発展を図ることが課題となる。これらの教育活動を充実・発展させる多彩で多様な取り組みが、特色ある学校づくり、特色ある教育活動、個性・能力に応じた学習活動を展開していくことになる。ゲストティーチャーやアシスタントティーチャー・学生ボランティアの活用を積極的に進め、教育活動の充実を期待する。

5. 特色ある学校づくりの意義は？

平成14年度から始まる完全学校週5日制に向け教育改革が進められる中、学校と家庭・地域社会の融合という言葉が最近よく聞かれる。以前から、学社連携といわれ、学校教育と社会教育との連携については、その関係強化の面から常に課題とされてきたが、学校の考え方と取り組む姿勢、地域性、住民意識によりそのスタイルは様々である。

子どもの成長にとって、両者の関係づくりを進めることは、大変大きな意義があり、間違いなく子どもの社会的成長（人間としての成長）を育む力がある。

「子どもの教育は学校だけではできない。学校にも限界がある。」「学校と家庭・地域社会の役割分担を……」と指摘したのは中教審である。しかし、役割を分担し、それぞれが別々に子どもの健全育成に関わっても、うまくいくわけがない。三者がそれぞれの役割を自覚し、責任を持って進める中で、関係強化を図る必要がある。このときの関係を連携と考えるか、融合と考えるかによって、その取り組みの姿勢も変わってくる。

〇〇小学校では、「マイタウン・〇〇〇プラン」の構想の下《地域と一緒に「豊かな心」「生きる力」を育む学校》を目指しているが、一般的に使われる「地域と共に」を、「地域と一緒に」と拘る訳はここにある。

学校と家庭・地域社会が一緒になって、子どもの健全育成に取り組む活動を積み重ねることにより、学校の「特色ある教育活動」「特色ある学校づくり」を進めていくことができる。

『21☆こだいらの教育改革アクションプラン』を策定し、『地域で育てようすこやかな子ども』をこだいらの教育改革の基調として、子どもの健全育成を地域社会と一緒に進めていこうという教育委員会の趣旨はここにある。多くの市民の協

力を得、多彩で多様な活動が、「特色ある教育活動」「特色ある地域活動」として生まれ、育ち始めている。それらを「学校の伝統」「地域社会の風土・文化」として育て、受け継ぎ、発展させていくのが「地域の力＝地域の教育力」である。そんな地域社会の構築、世代を越えたコミュニティづくりを、学校・家庭・地域社会が一緒に進め、『地域が見守り、地域が支え、地域が応援する、心通うまち ください！』を創っていききたい。

6. 特色ある教育活動の事例

① 時間割の工夫で特色を出す学校

それぞれの学校の教育目標、教育活動をより効果的に達成するために、これまでの週時程で決められた時間割ではなく、特色ある教育活動を展開するために、特色を持った時間割を作成することが必要になる。更に、時間割運用の工夫をすることにより、これまでの画一的な時間割システムを各学校が創意・工夫することができるようになる。

指導内容や指導方法、子どもの実態に応じて、それに必要な時間設定をすることにより学習効果を上げることが期待される。

*モジュールスケジューリングの活用

*教科間交流学习＝クロスカリキュラムの作成と時間割運用

② 総合的な学習の時間で特色を出す学校

各学校が子どもや地域の実態・特性を踏まえ、教育課程を編成する。

総合的な学習の時間は、その目標や内容が学習指導要領に示されず、また、教科書もない。単元創りにおいて、地域や子どもの実態・特性など、地域の物的、人的環境や条件を十分把握し、生かすことが必要となる。

総合的な学習の時間は、各学校の「特色ある教育活動」の要となる。

③ 交流活動で特色を出す学校

これまでの教育活動は、どちらかといえば同一の年齢の児童・生徒で構成される学級集団が基本となっている。しかし、目標や内容によっては今回の学習指導要領の改定により、複数学年にまたがってカリキュラムを構成することも可能となる。まさに学校の独自性と主体性＝学校の個性化が問われることとなる。

例えば、ある教科は3学年合同の学習集団を編成したり、ある教科は2学年で編成することも可能となる。学習集団が異年齢集団で編成されることにより、様々な教育効果を期待することができる。更に、異種間の学校や施設等との交流活動を通し、障害のある人々との共生を考えたり、学校間の接続をスムーズにすることにより、児童、生徒の進路学習を支援することともなる。更に、生徒数の減少から運営に支障が出始めている中学校の部活動の今後の在り方にも、創意・工夫が期待される。

④ 学校行事で特色を出す学校

⑤ 心の教育で特色を出す学校

⑥ 中学校・選択履修幅の拡大で特色を出す学校

- ⑦ 進路指導(生き方指導)で特色を出す学校
- ⑧ 小学校・学年内教科担任制で特色を出す学校
- ⑨ 小学校・複数学年間教科担任制で特色を出す学校
- ⑩ 学級編製の弾力化で特色を出す学校

2. 小平子どもボランティアスクール修了式に参加して

去る3月17日(土)に、福社会館市民ホールにおいて、平成18年度・第4回子どもボランティアスクール修了式が行われ、14名の子どもたちに小平市社会福祉協議会、海上会長より修了証書が授与された。ボランティア協力団体やこれまでの修了生、今回修了生のご家族、学校関係者、そして、社会福祉協議会理事者も参加される中、紙芝居プロジェクト、どんぐりプロジェクトの活動報告から始まり、1期生の津田安里沙さん(小平第一中二年生)とお友達の高橋咲紀さんによる「フルーツの音色」のプレゼント演奏があり、和やかな中にも充実した活動とその継続性が伺え、社会貢献活動へと繋がりを、市民性を育む教育活動が地域ぐるみで幅広く行われている小平のよさを実感した。

私は常々、公教育は未来を託す子どもの教育として、地域活動や、社会活動に参加し、社会に貢献できる、市民性を育む教育だと捉えてきた。一方で、社会規範意識の喪失や社会参加活動、社会貢献活動への若者(大人も含め)の意識の低下が、多くの国で問題になってきている。イギリスにおけるシチズンシップ・エデュケーションやアメリカにおけるサービス・ラーニングは、社会参加活動・社会貢献活動を体験的に学ばせ、社会参加を促すプログラムの一つであり、大いに参考になるものである。(以前に配布した村上氏の資料参照)社会福祉協議会が全面的に推進している「子どもボランティアスクール」は、これからの小平を担っていく子どもたちの市民性を育む大きな教育プログラムであることを認識し、できるだけ多くの子どもたちを送り出して欲しい。また、学校においても、「総合的な学習の時間」が見直し等の話題になっている時期、その重要性を認識し、それぞれの学校における位置づけと教育効果(期待される)や成果を世に問うていかなければいけないと感じている。以下の改革ビジョンを参考にして欲しい。

教育改革への私のビジョン

坂井 康宣 ●小平市(東京)教育委員会教育長



(さかい・やすのり)

体験活動を社会貢献活動へと高め 市民性を育み、社会参加を促す教育

今次教育改革は、「学校のみ教育改革ではなく、地域社会の教育力を回復し、ひいては、世代間の交流を通して『コミュニティの基盤整備』をも目指した教育改革である」ことを機会ある度に述べてきた。「21☆こだいらの教育改革アクションプラン」の基調を「地域で育てよう すこやかな子ども」としたのも、地域の教育力の回復を図

り、学校・家庭・地域社会が、「子どもとかかわり、見守り、支え、応援する」ことを通して、「世代を越えたコミュニティづくり」を具体化し、実現していこうという発想からであり、**教育が地域社会を変える起爆剤となり、子どもが地域社会を繋ぐ神経となり、地域と人々の心を繋ぐネットワークが構築される**と考えたからである。今、市内の各地域において、子どもの健全育成を目指した様々な活動が展開されている。どの地域でも新しいうねりと爽やかな風が感じられるし、実感できることは、大変嬉しいことである。子どもも、大人も、高齢者の方も、障害のある方も一緒になり、地域社会を巻き込んだ、「有意義な、実感もてる、楽しい体験学習」や、教科学習においても「習熟度別学習や個別指導」等に、学校支援ボランティア（学生・社会人）を導入し、「分かる授業、楽しい授業」を実感させる授業実践が展開されている。週末には、地域有志主催の多彩な体験活動が繰り広げられ、多くの人と触れ合う機会を通して、「世代を越えたコミュニティづくり」が推進されている。世の中が混沌とし、人々の心の孤独化、地域社会の希薄化が問題となっている今こそ、公教育において、「市民性」を育むことが大きな使命と課題であると考えている。日本においては、まだまだ、「市民性」という言葉が一般的ではなく、馴染まない面もあるが、「社会性を育む教育」とか「社会貢献性」「社会貢献活動」という言葉で表現すると違和感が少ない。大事なことは、「自分が地域社会の役にたっているんだ。」という**社会貢献の自覚**と、「地域の人が喜んでくれているんだ。」という**充実感・存在感等の実感**を伴った**体験活動**をどこまでカリキュラム化できるかである。その**体験学習**を、**地域社会の中で、地域の人々を巻き込んで展開していくことが大事な視点**であり、**市民性を育む根本理念**でもある。日本の学校教育においては、市民性を育むことを目的とした体験学習は実践されてこなかったが、平成14年度から創設された「総合的な学習の時間」では、**地域社会を教材に取り上げ、体験学習の場**とし、「発見し、見つめ、関わり、考え、企画し、提案する」活動を通して、単なる体験活動に終わることなく、**地域社会や人々と関わり、自分の考えや意見を地域社会に反映させ、実現していく仕組みや手法を学んでいくことが大事**である。このことが、市民性を育む教育であり、結果として、地域社会に貢献できることを喜びと感ずることのできる市民の育成を目指した教育活動を展開することになる。そして、これらの取り組みが、地域社会の教育力の回復を図り、市民参画型の地域社会を醸成していく最大の力になると考えている。
(明治図書学校運営研究平成15年3月号一部改訂)

3. 東京学芸大学「教職入門」授業、指導講師の依頼について

東京学芸大学「教職入門」の「教職の意義」等に関する教科授業の講師依頼については、これまでの2年生対象の教職入門講座を本年度から1年生に課すことから、本年度に限り、前期と後期に1年生と2年生対象の2回実施となる。教師を目指す後輩の養成、学生ボランティアの確保、優秀な初任者採用等人材確保の手だて、自校の教員のスキルアップ等の視点からも協力をよろしく願いたい。来年度からは1年生対象の講座となる。このことにより、一年時に教職入門講座を開講することにより、教師像について学生なりの思いを描かせるとともに、教育現場の実態の情報提供と体験をさせることにより、教師としての心構えを持たせることになる。その後、実際に学生ボランティアとして学校現場の体験を通して3年次・4年次の教育実習、アシスタントティーチャーとしての経験を積ませることにより、教員養成への貢献と優秀な教員確保の道に繋がる。

今年度は、私も3・4年生対象の特別講座の講師として参加することになっている。
第一回は、4月26日(木)「これから求められる教師像」について
第二回は、5月17日(木) 鷲山学長との対談(パネルディスカッション) 演題未定
第三回は、6月7日(木)「コミュニティ・スクール、家庭・地域社会と学校の連携について」の予定である。

4. 小平第三中学校吹奏楽部

全日本アンサンブルコンテスト 中学校の部 打楽器八重奏において金賞受賞

4月11日(水)午後4時30分、加藤校長、斉藤教諭に引率された三中生9名が、年度末も押し迫った3月21日(水・祝)、横浜市のみなとみらいホールで開催された打楽器八重奏の上記コンテストに1・2年生の編成で参加し、金賞を受賞した報告に訪れた。教育委員会5階フロアにて、職員の大きな拍手に包まれた三中生は、つい数日前に2年生、3年生になったばかりで、あどけなさの残る表情に、先輩が築いてきた伝統を守れたという誇りと、自分たちも全日本の金賞を獲得できたという喜びと充実感に満ちあふれた、清々しい表情を見せていた。そして「これからも伝統を守って頑張ります。」という決意に頼もしさを感じた。本当におめでとう。

5. 平成19年度、スクール・アクションプログラムの実施に向けて

昨年度のスクールアクションプログラムの報告会は、それぞれの学校の取り組み状況と成果について大いに期待できるものがあり、他の学校の教員にも取り組みと成果の共有ができ、今後期待できるものであった。そこで、平成19年度に向けた各学校の具体策について、昨年同様提出をお願いしたい。

- ◎ 「21☆こだいらの教育改革アクションプログラム」の11課題について、各校毎の実施内容を明らかにし、その中から平成19年度、特に重点施策として取り上げ、実践する課題を三点あげ、実践の具体策を明確にする。
- ◎ 昨年度と同課題を取り上げた学校は、その根拠を明確に示す。
- ◎ それらを実践・解決していくために押さえておくべきポイントを示す。
また、実践に向けた具体策とスケジュールを示す。
- ◎ 期待される成果(子ども、保護者、地域、教師、学校経営について)を示す。

尚、全校分をまとめ、資料とするので、以下に示す書式に沿って、5月7日(月)の校長・副校長合同会議時に提出をお願いします。

資料は見開きとするため、アクションプログラム11課題について各校が独自に進めるプログラム実施内容の要約を2ページに収め、重点施策三点については、一課題を偶数ページに収めることとする。(原則見開き2ページ)

文書スタイルは A4縦・横書き、文字数40字×行数40行、余白は上下、左右共20㉿、文字サイズ12ポイント、文字種は細丸ゴシック体

1. スクール・アクションプログラム課題名

2. 課題設定の理由（前年度に引き続き同課題を設定する場合には、その根拠を明確に示すこと）
3. 解決・実践上押さえるべきポイント
4. 解決・実践の具体策とスケジュール
5. 期待できる成果 ①子ども
③教職員
④保護者・地域
④学校経営
6. 自由意見

上記の内容について校長が起案し、教職員に周知する。それを受け、副校長として19年度実施のアクションプログラムの課題解決に向け取り組む具体策を明らかにする。副校長用書式は、以下の通りとする。

副校長課題 校長課題1～3をそれぞれ2ページに収める。
文書スタイルは校長様式と同様

1. アクションプログラム課題名
2. 校長が課題とした背景（同課題の場合はその根拠）
3. 課題解決・実践上押さえるべき副校長の役割
課題
校長
教職員
子ども に対して
保護者
地域
4. 課題解決・実践に向けた副校長の具体策とスケジュール
5. 自由意見

以下の体裁で合本するので、それぞれに示したページ番号を打つこと。

21 ☆こだいらの教育改革 こだいらスクール・アクション・プログラム目次

	あいさつ……………	1		
	アクションプログラム解説……………	2～3		
	目次……………	4～5	校長	副校長
小平第一 小学校	アクション・プログラム11 ……	1～		
	重点課題1・特別支援教育 ……	3～		5～
	重点課題2・福祉教育 ……	7～		9～
	重点課題3・国際理解教育 ……	11～		13～
小平第二 小学校	アクション・プログラム11 ……	15～		
	重点課題1・学力向上 ……	17～		19～
	重点課題2・健康・安全教育 ……	21～		23～
	重点課題3・特別支援教育 ……	25～		27～
小平第三 小学校	アクション・プログラム11 ……	29～		
	重点課題1・学力向上 ……	31～		33～
	重点課題2・豊かな読書活動 ……	35～		37～
	重点課題3・健康・安全教育 ……	39～		41～
小平第四 小学校	アクション・プログラム11 ……	43～		
	重点課題1・特別支援教育 ……	45～		47～
	重点課題2・国際理解教育 ……	49～		51～
	重点課題3・健康・安全教育 ……	53～		55～
小平第五 小学校	アクション・プログラム11 ……	57		
	重点課題1・学力向上 ……	59～		61～
	重点課題2・健康・安全教育 ……	63～		65～
	重点課題3・特別支援教育 ……	67～		69～
小平第六 小学校	アクション・プログラム11 ……	71～		
	重点課題1・コミュニティ・スクール ……	73～		75～
	重点課題2・家庭教育支援 ……	77～		79～
	重点課題3・学力向上 ……	81～		83～
小平第七 小学校	アクション・プログラム11 ……	85～		
	重点課題1・学力向上 ……	87～		89～
	重点課題2・情報教育 ……	91～		93～
	重点課題3・キャリア教育 ……	95～		97～

小平第 八 小学校	アクション・プログラム11	99～	
	重点課題1・健康・安全教育	101～	103～
	重点課題2・キャリア教育	105～	107～
	重点課題3・国際理解教育	109～	111～
小平第 九 小学校	アクション・プログラム11	113～	
	重点課題1・健康・安全教育	115～	117～
	重点課題2・特別支援教育	119～	121～
	重点課題3・健全育成	123～	125～
小平第 十 小学校	アクション・プログラム11	127～	
	重点課題1・健全育成	129～	131～
	重点課題2・福祉教育	133～	135～
	重点課題3・国際理解教育	137～	139～
小平第十一小学校	アクション・プログラム11	141～	
	重点課題1・学力向上	143～	145～
	重点課題2・福祉教育	147～	149～
	重点課題3・健康・安全育成	151～	153～
小平第十二小学校	アクション・プログラム11	155～	
	重点課題1・学力向上	157～	159～
	重点課題2・環境教育	161～	163～
	重点課題3・特別支援教育	165～	167～
小平第十三小学校	アクション・プログラム11	169～	
	重点課題1・学力向上	171～	173～
	重点課題2・健全育成	175～	177～
	重点課題3・家庭教育支援	179～	181～
小平第十四小学校	アクション・プログラム11	183～	
	重点課題1・学力向上	185～	187～
	重点課題2・健康・安全教育	189～	191～
	重点課題3・豊かな読書活動	193～	195～
小平第十五小学校	アクション・プログラム11	197～	
	重点課題1・学力向上	199～	201～
	重点課題2・国際理解教育	203～	205～
	重点課題3・環境教育	207～	209～

花小金井 小学校	アクション・プログラム11	211～	
	重点課題1・情報教育	213～	215～
	重点課題2・環境教育	217～	219～
	重点課題3・福祉教育	221～	223～
鈴 木 小学校	アクション・プログラム11	225～	
	重点課題1・学力向上	227～	229～
	重点課題2・特別支援教育	231～	233～
	重点課題3・福祉教育	235～	237～
学 園 東 小学校	アクション・プログラム11	239～	
	重点課題1・学力向上	241～	243～
	重点課題2・家庭教育支援	245～	247～
	重点課題3・国際理解教育	249～	251～
上 宿 小学校	アクション・プログラム11	253～	
	重点課題1・学力向上	255～	257～
	重点課題2・豊かな読書活動	259～	261～
	重点課題3・福祉教育	263～	265～
小平第 一 中学校	アクション・プログラム11	267～	
	重点課題1・学力向上	269～	271～
	重点課題2・豊かな読書活動	273～	275～
	重点課題3・健全育成	277～	279～
小平第 二 中学校	アクション・プログラム11	281～	
	重点課題1・特別支援教育	283～	285～
	重点課題2・学力向上	287～	289～
	重点課題3・家庭教育支援	291～	293～
小平第 三 中学校	アクション・プログラム11	295～	
	重点課題1・福祉教育	297～	299～
	重点課題2・学力向上	301～	303～
	重点課題3・国際理解教育	305～	307～
小平第 四 中学校	アクション・プログラム11	309～	
	重点課題1・学力向上	311～	313～
	重点課題2・健全育成	315～	317～
	重点課題3・キャリア教育	319～	321～

小平第五中学校	アクション・プログラム11	323～	
	重点課題1・学力向上	325～	327～
	重点課題2・豊かな読書活動	329～	331～
	重点課題3・健全育成	333～	335～
小平第六中学校	アクション・プログラム11	337～	
	重点課題1・国際理解支援	339～	341～
	重点課題2・福祉教育	343～	345～
	重点課題3・健全育成	347～	349～
上水中学校	アクション・プログラム11	351～	
	重点課題1・特別支援教育	353～	355～
	重点課題2・学力向上	357～	359～
	重点課題3・健康・安全教育	361～	363～
花小金井南中学校	アクション・プログラム11	365～	
	重点課題1・キャリア教育	367～	369～
	重点課題2・情報教育	371～	373～
	重点課題3・学力向上	375～	377～

21 ☆こだいらの教育改革 こだいらスクール・アクション・プログラム実施状況

スクールアクション・プログラム11課題 + コミュニティ・スクール

小平第一小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・特別支援教育	・特別支援教育	
重点課題2	・福祉教育	・福祉教育	
重点課題3	・国際理解教育	・国際理解教育	

小平第二小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・健康・安全教育	・健康・安全教育	
重点課題3	・特別支援教育	・特別支援教育	

小平第三小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	

重点課題 2	・特別支援教育	・豊かな読書活動	
重点課題 3	・情報教育	・健康・安全教育	

小平第 四 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・学力向上	・特別支援教育	
重点課題 2	・国際理解教育	・国際理解教育	
重点課題 3	・特別支援教育	・健康・安全教育	

小平第 五 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・学力向上	・学力向上	
重点課題 2	・特別支援教育	・健康・安全教育	
重点課題 3	・家庭教育支援	・特別支援教育	

小平第 六 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・学力向上	・コミュニティ・スクール	
重点課題 2	・コミュニティ・スクール	・家庭教育支援	
重点課題 3	・家庭教育支援	・学力向上	

小平第 七 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・学力向上	・学力向上	
重点課題 2	・情報教育	・情報教育	
重点課題 3	・キャリア教育	・キャリア教育	

小平第 八 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・キャリア教育	・健康・安全教育	
重点課題 2	・健康・安全教育	・キャリア教育	
重点課題 3	・国際理解教育	・国際理解教育	

小平第 九 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・健康・安全教育	・健康・安全教育	
重点課題 2	・特別支援教育	・特別支援教育	
重点課題 3	・健全育成	・健全育成	

小平第 十 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題 1	・福祉教育	・健全育成	
重点課題 2	・国際理解教育	・福祉教育	
重点課題 3	・健康・安全教育	・国際理解教育	

小平第十一小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・福祉教育	・福祉教育	
重点課題3	・健全育成	・健全育成	

小平第十二小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・環境教育	・環境教育	
重点課題3	・福祉教育	・特別支援教育	

小平第十三小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・健全育成	・健全育成	
重点課題3	・家庭教育支援	・家庭教育支援	

小平第十四小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・豊かな読書活動	・健康・安全教育	
重点課題3	・特別支援教育	・豊かな読書活動	

小平第十五小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・環境教育	・国際理解教育	
重点課題3	・国際理解教育	・環境教育	

花小金井 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・福祉教育	・情報教育	
重点課題2	・情報教育	・環境教育	
重点課題3	・環境教育	・福祉教育	

鈴木 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・特別支援教育	・特別支援教育	
重点課題3	・福祉教育	・福祉教育	

学園東 小学校	18年度	19年度	20年度
重点課題1	・学力向上	・学力向上	
重点課題2	・家庭教育支援	・家庭教育支援	

重点課題 3	・国際理解教育	・国際理解教育	
--------	---------	---------	--

上 宿 小学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・学力向上	・学力向上	
重点課題 2	・豊かな読書活動	・豊かな読書活動	
重点課題 3	・福祉教育	・福祉教育	

小平第一 中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・学力向上	・学力向上	
重点課題 2	・特別支援教育	・豊かな読書活動	
重点課題 3	・健全育成	・健全育成	

小平第二 中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・家庭教育支援	・特別支援教育	
重点課題 2	・学力向上	・学力向上	
重点課題 3	・特別支援教育	・家庭教育支援	

小平第三 中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・学力向上	・福祉教育	
重点課題 2	・福祉教育	・学力向上	
重点課題 3	・国際理解教育	・国際理解教育	

小平第四 中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・学力向上	・学力向上	
重点課題 2	・健全育成	・健全育成	
重点課題 3	・キャリア教育	・キャリア教育	

小平第五 中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・学力向上	・学力向上	
重点課題 2	・豊かな読書活動	・豊かな読書活動	
重点課題 3	・健全育成	・健全育成	

小平第六 中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題 1	・家庭教育支援	・国際理解教育	
重点課題 2	・福祉教育	・福祉教育	
重点課題 3	・国際理解教育	・健全育成	

上 水 中学校	18年度	19年度	20年度年度
---------	------	------	--------

重点課題1	・学力向上	・特別支援教育	
重点課題2	・特別支援教育	・学力向上	
重点課題3	・健康・安全教育	・健康・安全教育	

花小金井南中学校	18年度	19年度	20年度年度
重点課題1	・学力向上	・キャリア教育	
重点課題2	・情報教育	・情報教育	
重点課題3	・キャリア教育	・学力向上	

その他.

- * 中学校職場体験学習の推進について（今年度、小平ロータリークラブの協力）
- * 教科等研究部会、研究発表会について（今年度発表部の取り組みに期待）
- * 加配されている副校長任用前教員、研究加配、習熟度別学習加配、TT加配等、定数外加配教員の適切な業務指示と執行管理について（校長、副校長、担当者の責任ある執行を……）
- * 生徒指導資料作成等に伴う、個人情報取得手続きと適切な管理、処理について
- * 学校医の先生方との連携について
- * 学校支援ボランティアの活動の掌握について
- * 学校のホームページの更新と内容充実について
- * 学生ボランティアの活動実績（活動日数 活動内容とその成果、他のボランティアや保護者・地域との関わり、教師としての資質・能力等）について
（特に教員採用試験に合格した学生の確保を希望する場合には詳細な記録を）
- * 主任児童委員、民生・児童委員とのチームワーク、児童相談所との連携について
- * 第26回小平グリーンロード歩こう会
昨日、4月15日（日）に開催された上記行事は、市民憲章推進協議会の健康なまちづくりを進める一環として開催されてきたものであるが、子どもや家族の参加が大変少ない。（252人参加）来年度は参加を呼びかける工夫をしたい。
- * 教育三法改正の審議がいよいよ大詰めを見せている。注視したい。
- * 小平市議会議員の改選を迎え、選挙活動が始まった。教職員のサービスの徹底については再度確認を。